

「母性愛信仰」と「ホスピタリズム妄想」を超えて 連載

～保育園という制度的な子育ての仕組みで育つ子どもたち～

インターネットベビーシッター事件が与えたショック

インターネットのベビーシッター事件が、大きく取り上げられています。世間一般の人たちが、インターネット上で子どもを預けるシステムを知らなかったことが、より事件性を大きくしています。私も知らなかった一人ですが、テレビで大学教授やコメンテーターが問題点を指摘していますが、彼らも知らなかったか、例え、知っていたとしても、世間一般と同じぐらいの認識だったようです。大阪府の知事さんは、インタビューに、このようなシステムがあるのを知らなかったと正直に話しておられました。

預ける側の母親の声は聞こえて来ないのですが、テレビの中で、子育てをしている母親は、「働くのは昼にしろ」と責められているようだ、といった言葉が頭に残りました。

この事件で浮かび上がって来たもう一つが、シングルマザーと子どものことです。離婚した1年目の親たちは、精神的な葛藤は大きいのですが、当然、子どもに対する影響も深刻です。日本の離婚率は急激に増加し、「三組に一人の離婚」とマスコミで報じられていますが、保育園の乳児室の3割近い子どもがシングルマザーに育てられている現場もあります。

シングルマザーで育てられる子ども特有の問題があるのか？

離婚問題は微妙な人権の側面があり、日本では、シングルマザーの増加の割には、深く踏み込んだ調査は少ないようです。その点、離婚王国アメリカには膨大な数の調査と、長年に渡る子どもの精神的な影響や社会的な行動を追跡した報告があります。

親の離婚の原因を、自分が悪かったから親は離婚したと自分を責める女の子や、急な男親不在から、男性としての役割性に混乱が生じ、母親に反抗的になり、反社会的な行動に走る男の子の特性、成人になっても男性との関係づくりに悩む女性たちが報告されています。

若いシングルマザーに育てられる子どもを、早く保育園に受け入れる必要性は行政側も認識していますが、それはあくまでも行政的な配慮であって、受け入れる保育としての配慮やシングルマザー支援には程遠い現実です。

私が招かれる私立保育園の園内研修が終わるには8時ごろですが、一人か二人の乳児が母親の迎えを待っている姿を見かけるのが多くなりました。保育園側も、シングルマザーの仕事と子育ての大変さを理解して受け入れておられます。